

※基本構想(素案)に対するご意見

No.	項目等	ご意見等	ご意見に対する対応・見解
1	現状と課題：自然と共生するまちづくり	市内において太陽光発電装置が散見されるようになっており、「田舎」の原風景である農地や森林がなくなるのは市の魅力が減ることだけでなく、生態系の変化や環境保全の観点からも今後増え続けることに不安を感じる。電力の自由化でますます設置の選択肢が増えることになるため、市として十分な監視および規制が必要ではないか。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。
2	現状と課題：快適で潤いのあるまちづくり	市内をバスが走っている姿を見ることが増え、バスの利用や認知度については広がってきているように感じるが、本当にバスが必要なのか考えてみてもよいのではないか。 具体的には、情報技術の発展や小売業のサービス拡充に伴い、自宅に食料などを運んでくれるサービスが増えていることから、高齢者など移動が困難な方には、無理にバスやタクシーを利用させるのではなく、上記のような宅配サービスを案内するなど、バスなどを使わずに目的を達成する方法を模索することも必要。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。
3	現状と課題：健やかに安心して暮らせるまちづくり	市の高齢化が進む中で「元気な高齢者」と「そうでない高齢者」に2極化されることが予想される。前者には適当な労働機会の提供や介護予防に関する広報やアクティビティ、コミュニティの拡充が重要。後者には地域包括ケアシステムに基づく自立支援が重要。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。
4	現状と課題：安全で便利なまちづくり	自動車が自動運転化する未来が近づいてきており、高速道路や市内幹線道路のネットワーク化(大規模Wifi化)の準備が必要ではないかと感じる。併せて歩行者への安全の配慮や基盤づくりも必要。公共施設の改築に伴うWifi化は今ではもう当たり前になってきているのが現状で、時代の一步先を見据えたまちづくりが必要ではないか。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。
5	現状と課題：活力を創出するまちづくり	グローバル化で企業の国内製造拠点の見直しが顕著となり、地方の雇用機会の減少が発生している。市においても、今後新たに企業の大規模拠点を誘致することは難しくなると予想されることから、発想の転換が必要。 政府の施策として、都心の仕事を地方で行う「ふるさとテレワーク」の推進がされており、新しい働き方としても注目されている。会津若松市などですでに一般企業と共同で実証実験を行っており、今後も各地方都市で事例が挙がってくると予想される。 行政主導のもと地域と連携して、大企業に頼らない雇用創出も視野に入れてはどうか。また短期的な雇用創出ではなく、労働者の移住も含めた検討も重要。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。

No.	項目等	ご意見等	ご意見に対する対応・見解
6	現状と課題：豊かな心と文化を育むまちづくり	子どもたちが豊かに育つためには教育環境の整備もちろん大事だが、本質的な問題として、保護者の問題があるように感じる。核家族化の増加や自治会への不参加などで、「子育て」の方法を第三者から教わることもなくなり、子どものことを直視しない保護者が目につくようになってきたと感じる。 また、外出先でスマートフォンや携帯ゲームに「子育て」をさせている家族も見られることから、教育環境の整備と同時に、保護者への「豊かな子育て」の指南を目的とした保護者・教育者を交えたシンポジウムの開催など、地域社会と教育機関とのコラボレーションが実現できれば現状が少しでも改善できるのではないか。	今後の基本計画策定の参考とさせていただきます。
7	基本理念、目標について	自然を守り、過去の歴史を学び、人が中心となり共に支え合い何をを目指すのか。それは豊かな自然と共に共生する活力あるまちづくりとなるのか。少子高齢化の老人のまちではなく、若い人達が高校卒業と同時に去っていくまちではなく、大学卒業後戻ってきたいようなまちづくりではないか。移住者が進んで移住して来なくなるようなまちづくりではないか。 それには雇用・就労環境の充実が必要である。大企業が撤退し、後継ぎが居なくなり、農村・山村が破壊され、あちこちの無耕作地・遊休農地にソーラーパネルばかりが無秩序に設置され、ソーラーのまちと化することに危惧する。	定住促進に関しては、平成27年3月に策定した「那須塩原市定住促進計画(那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略)」を「分野横断的に取り組む戦略的ビジョン」として位置づけ推進しています。
8	将来像についての表現	「人がつながり新しい力が湧きあがるまち」という表現だが、少しおとなしいオーソドックスな感じがする。もっとポジティブな明るいイメージのインパクトのある表現が欲しい気がする。例えば、他市町村の人にも知られている宇都宮市の場合は「住めば愉快だ宇都宮」を基本とし、各ジャンルに応用している。	宇都宮市の「住めば愉快だ宇都宮」と同じ位置づけとして、那須塩原市では「チャレンジング那須塩原 一步踏み出す人を応援するまち」をブランドメッセージに掲げています。
9	基本理念についての表現	「人を中心に共に支え合うまちづくり」について、支え合うだけではなく、「人が輝く」というような表現はどうか。将来像についても、人がつながりではなく、輝きを増すということと考えたらいいのではないか。	将来像の説明文の中に「人が輝きを増し」という表現を追加しました。
10	将来像についての表現	「人がつながり」と「新しい力が湧きあがる」とあるが、どちらに重きがいくのか。両方主語なので、「まちに新しい力が湧きあがる」というのがイメージしにくい。人が主体なのに、新しい力がどこから湧きあがるのか、そのあいまいさが気になる。 「新しい力が湧きあがるんですよ、人がつながることによって。」ということであれば、「新しい力が」と「湧きあがる」の間は空けずに、「新しい力が湧きあがる」とつなげた方がよい。	文章のつながりを考え、「新しい力が」と「湧きあがる」の間のスペースを詰め、「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」としました。